

1.1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率

算式

【分子】

分母対象例のうち、当該入院期間中に「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した患者数

【分母】

測定期間内の退院患者のうち「胃がん」を主病名として入院し、「K6552胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-22腹腔鏡下胃切除術 悪性腫瘍手術」、「K655-42噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K655-52腹腔鏡下噴門側胃切除術 悪性腫瘍切除術」、「K6572胃全摘術 悪性腫瘍手術」又は「K657-22腹腔鏡下胃全摘術 悪性腫瘍手術」を施行した退院患者数

定義

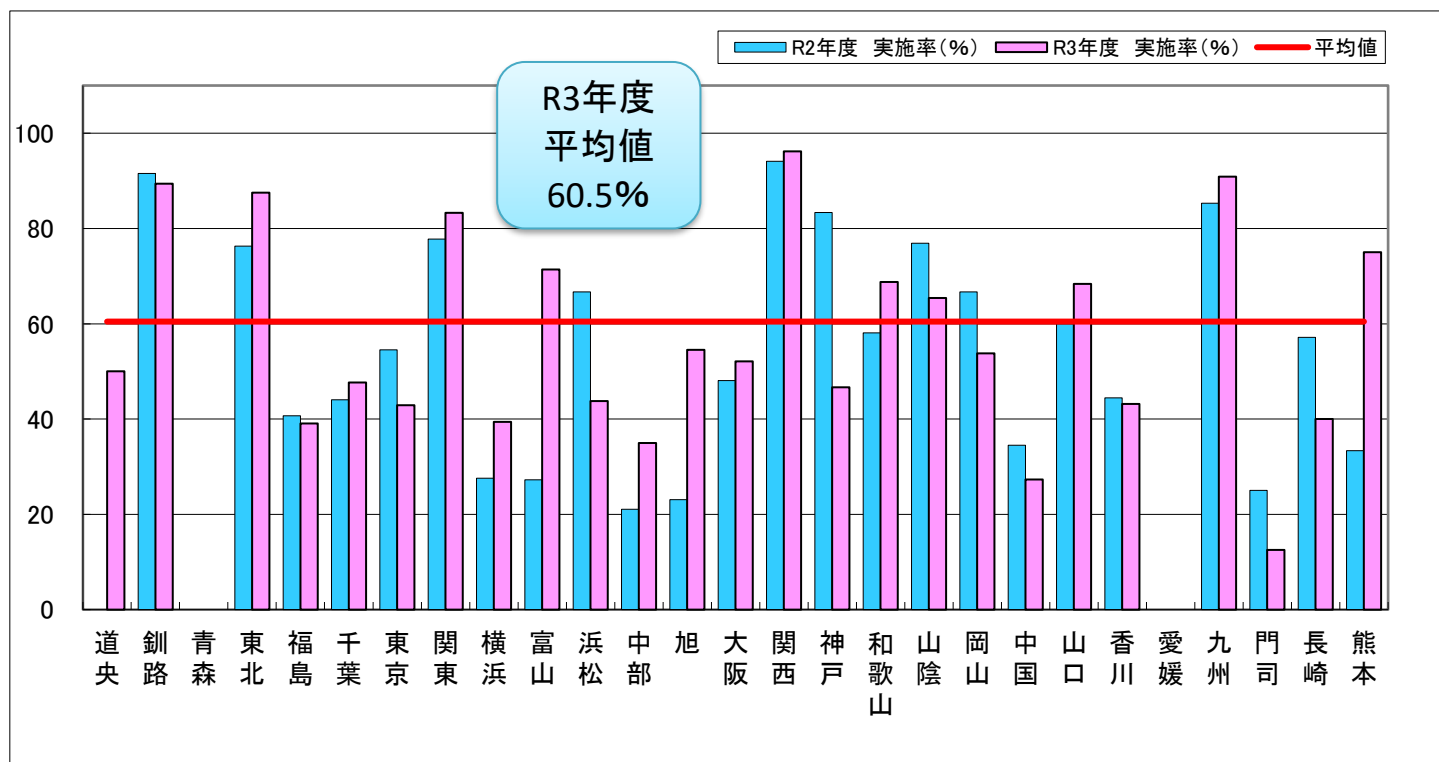
「胃がん」を主病名として入院し、悪性腫瘍手術を実施した患者のうち腹腔鏡下での手術実施割合

指標の解説

DPCデータより抽出

腹腔鏡下手術の有用性としては、開腹手術と比較し、入院期間の短縮、腸管運動の早期回復、術後の疼痛軽減等が挙げられており、当該手術の実施率により患者の負担軽減、社会復帰への貢献度を評価する。

1.1. 胃がん患者に対する腹腔鏡下手術の実施率



No	施設名※	R2年度			R3年度			(再掲)ロボット支援手術によるもの
		分母	分子	実施率(%)	分母	分子	実施率(%)	
1	道 央	2	0	0.0	4	2	50.0	-
2	釧 路	59	54	91.5	48	43	89.4	-
3	青 森	12	0	0.0	21	0	0.0	-
4	東 北	38	29	76.3	34	29	87.5	-
5	福 島	59	24	40.7	46	18	39.1	-
6	千 葉	59	26	44.1	46	21	47.7	0
7	東 京	11	6	54.5	16	8	42.9	-
8	関 東	18	14	77.8	32	27	83.3	-
9	横 浜	29	8	27.6	35	14	39.4	0
10	富 山	11	3	27.3	8	6	71.4	-
11	浜 松	12	8	66.7	16	7	43.8	-
12	中 部	19	4	21.1	22	8	35.0	-
13	旭	13	3	23.1	11	6	54.5	-
14	大 阪	79	38	48.1	77	41	52.1	0
15	関 西	85	80	94.1	84	81	96.2	27
16	神 戸	12	10	83.3	15	7	46.7	-
17	和 歌 山	31	18	58.1	33	22	68.8	-
18	山 陰	26	20	76.9	27	18	65.4	-
19	岡 山	18	12	66.7	14	8	53.8	-
20	中 国	29	10	34.5	22	6	27.3	-
21	山 口	20	12	60.0	21	14	68.4	-
22	香 川	63	28	44.4	38	16	43.2	7
23	愛 媛	3	0	0.0	2	0	0.0	-
24	九 州	34	29	85.3	33	30	90.9	-
25	門 司	8	2	25.0	8	1	12.5	-
26	長 崎	7	4	57.1	16	6	40.0	-
27	熊 本	18	6	33.3	12	9	75.0	-
合 計		775	448	57.8	741	448	60.5	-
平均	500床以上	45	29	57.5	47	33	65.6	-
	400床以上	36	22	57.3	28	19	61.5	-
	300床以上	27	15	61.5	26	13	52.6	-
	300床未満	8	1	12.6	9	3	31.4	-

※対象症例が複数ない施設については除外した